

大使館情報

2016年6月

【目次】

1. ブラジル・マクロ経済情勢

- (1) 経済情勢等（5月発表の経済指標）
- (2) 経済政策等
- (3) 中銀の金融政策等
- (4) 為替市場
- (5) 株式市場

2. ブラジル政治情勢

内政

- (1) ルセーフ大統領のメーデーでの演説
- (2) ジャノー連邦検事総長による捜査許可請求等
- (3) ルセーフ大統領のリオ五輪聖火リレー開始式典での演説
- (4) 上院での大統領弾劾手続きの進捗
- (5) クーニャ下院議長の停職処分
- (6) 下院議長代行による弾劾手続きの無効化決定
- (7) 大統領の弾劾に係る上院本会議での表決
- (8) テメル暫定政権の発足
- (9) 与党連合の形成
- (10) ジュカー企画予算大臣の休職
- (11) 文化省の再設置
- (12) 透明性監察監督大臣の辞任

外交

- (1) セーハ外務大臣の就任
- (2) ブラジル国内状況に関する中南米の一部諸国の表明に対する反論
- (3) セーハ外務大臣のアルゼンチン訪問
- (4) 外務省の新体制（マルコス・ガルヴァオン外務省新次官の就任）
- (5) セーハ外務大臣のカーボ・ヴェルデ訪問

3. トピックス

- (1) 梅田大使のセルジッペ州公式訪問
- (2) マリンガ日本公園新旧会長交代式（クリチバ総領事館）
- (3) 第43回日伯友好経済使節団の訪日（クリチバ総領事館）

4. 大使館からのお知らせ

- (1) 文化イベント
- (2) ブラジル渡航情報

※大使館情報の最近のバックナンバーを大使館ホームページに掲載していますのでそちらも御覧ください（在ブラジル日本大使館 www.br.emb-japan.go.jp）。

1. ブラジル・マクロ経済情勢

(1) 経済情勢等（5月発表の経済指標）

- (ア) 中銀が週次で発表しているエコノミスト等への調査に基づく経済成長予測に関し、5月27日時点では、本年の経済成長率は▲3.81%で2週連続の上方修正、明年の経済成長率は0.55%とされた。また、本年のインフレ率見通しは7.06%で2週連続の上方修正、明年のインフレ率見通しは5.50%とされた。
- (イ) 4月の拡大消費者物価指数（IPCA）は単月で0.61%となり、前月の0.43%から再び上昇した。食料・飲料費が+1.09%、保健・衛生費が+2.33%となったことが寄与した。また、本年当初からの累計で3.25%、12か月累計で9.28%の上昇となり、依然として政府のインフレ目標の上限である6.5%を上回る水準となっている。
- (ウ) 3月の鉱工業生産指数は、前年同月比▲11.4%で25か月連続のマイナス、前月比では+1.4%となった。
- (エ) 4月の貿易収支は、輸出額は153.74億ドル（前年同月比+1.4%、前月比▲3.9%）、輸入額は105.13億ドル（前年同月比▲28.3%、前月比▲9.0%）で、差し引き48.61億ドルとなり14か月連続で貿易黒字を記録した。
- (オ) 3月の小売売上高は、前年同月比▲5.7%で12か月連続のマイナス、前月比では▲0.9%となった。
- (カ) 全国の失業率（2～4月の移動平均）は11.2%となり、前回の公表値（1～3月の移動平均）の10.9%から悪化した。

(2) 経済政策等

- (ア) 5月12日、新たに就任したテメル大統領代行は、財務大臣にエンリケ・メイレス前中銀総裁、企画予算大臣にロメロ・ジュカー上院議員をそれぞれ任命した（注：ジュカー企画予算大臣は、汚職関与の疑いを与える録音内容が報じられたことを機に、同23日に休職願を提出し、テメル大統領代行も承認）。
- (イ) 5月12日、テメル暫定政権は、新たなインフラ投資プログラムとなる投資連携プログラム（PII）を発表し、大統領府に大統領が議長を務めるPPI審議会及び事務局を設置するとした。
- (ウ) 5月13日、新たに就任したメイレス財務大臣は、年金制度、労働及び歳出額の上限設定といった改革を優先事項として検討するとともに、経済を回復させるための措置は、現実的かつ議会によって承認が見込まれるものである必要があると述べた。
- (エ) 5月16日、伯企画予算省は、マルケス女史が伯経済社会開発銀行（BNDES）総裁に就任すると発表した。
- (オ) 5月17日、メイレス財務大臣は、テメル暫定政権の経済チームのメンバーを承認し、中銀総裁にゴールドファイン・現イタウ銀行チーフエコノミストを指名した。また、今後30日以内に年金制度改革案を議会に提出するとした。
- (カ) 5月20日、伯財務省及び企画予算省は、2016年度の政府全体のプライマリーバランス目標を▲1,639.42億レアル（GDP比▲2.64%）、連邦政府のプライマリーバランス目標を▲1,704.96億レアル（GDP比▲2.75%）とすることを発表した。また、2016年のマクロ

経済指標の政府見通しについて、GDP 成長率は▲3.8%、インフレ率は7.0%、政策金利 (Selic) は14.0%、ドル・レアル為替レートは1ドル=3.7レアルとされた。

- (キ) 5月24日、テメル暫定政権は、歳出削減に関する措置を発表した。歳出の上限設定については、歳出の伸び率を前年のインフレ率を上限とする憲法改正案を連邦議会に提案し、来年度までに実施するとした。また、伯経済社会開発銀行 (BNDES) への貸付の返納、プレサル基金の活用、補助金供与の増額の制限等が盛り込まれた。なお、年金制度改革については、労働組合及び社会の代表の参加を得て検討を行い、合意に達した段階で発表するとした。
- (ク) 5月25日、連邦議会は、政府の提案した2016年度のプライマリーバランス目標の変更を承認した。
- (ケ) 5月25日、テメル暫定政権は、公的金融機関の新総裁を発表した。ブラジル銀行総裁にカファレツリ・現ナショナル製鉄 (CSN) 執行役員 (元ブラジル銀行副総裁、財務次官)、連邦貯蓄公庫 (カイシャ・エコノミカ) 総裁にオッキ・前国家統合大臣をそれぞれ充てるとした。
- (コ) 5月30日、国営石油会社のペトロブラス社は、ペドロ・パレンテ氏 (カルドーゾ政権で企画予算大臣、文官長等を歴任) が新総裁に就任すると発表した。

(3) 中銀の金融政策等

- (ア) 5月は政策金利 (Selic) を決定する中銀の通貨政策委員会 (Copom) は開催されていない。次回会合は、6月7・8日に開催予定。
- (イ) 5月12日、テメル大統領代行は、所信表明演説において、市場に対するメッセージとして、中銀の独立性は維持され、金融政策実施のためにその活動は強化されるとともに、インフレ抑制を実現させ、労働者階級への負担を減らし、経済を回復させなければならないと述べた。
- (ウ) 5月13日、テメル暫定政権は、今後進めるとされる憲法改正の成立後、中銀総裁を閣僚ポストから除外する大統領暫定措置令を公表した。
- (エ) 5月17日、メイレス財務大臣は、中銀の決定に関する技術的自立性を憲法改正を通じて保障するとともに、中銀総裁に閣僚のステータスがなくなっても、憲法改正案を通じて特別の権利が保障される旨述べた。

(4) 為替市場

- (ア) 5月のドル・レアル為替相場は、前半はルセーフ大統領の弾劾手続の進展、後半はテメル暫定政権の動向が主な取引材料になった一方、中銀による大規模な為替介入 (ドル買い・レアル売り) も断続的に行われた結果、1ドル=3.5レアル前後の比較的狭いレンジでの値動きとなった。
- (イ) 月の前半は、ルセーフ大統領の弾劾手続が上院においても順調に進行したことから、政権交代期待でレアル買いの動きが強まったものの、中銀による為替介入も実施された結果、1ドル=3.5レアルを挟む展開となった。
- (ウ) 月の後半は、米国の早期利上げの観測が高まったことに加え、新たに発足したテメル

暫定政権の重要閣僚であるジュカー企画予算大臣の辞任等の動きを嫌気し、1ドル=3.6リアル台までドル高・リアル安が進行した。月末は1ドル=3.6116リアルで取引を終えた（前月比+5.1%のドル高・リアル安）。

(5) 株式市場

- (ア) 5月のブラジルの株式相場（Ibovespa 指数）は、中国の景気減速長期化の懸念や米国の早期利上げ観測の高まりといった外部環境の悪化に加え、内政面での混乱も嫌気された結果、ほぼ一貫して下落する展開となった。
- (イ) 月の前半は、ルセーフ大統領の停職決定が好感されたものの、中国の弱い経済指標等が嫌気され、乱高下しつつも一時 50,000 ポイント台まで下落した。
- (ウ) 月の後半は、米国の早期利上げの観測が高まったことにより新興国の株価が下落したことに加え、月末にかけては内政面での混乱が嫌気され、株価は引き続き下落した。月末の株価は 48,472 ポイントとなり、前月比▲10.1%の下落となった。

2. ブラジル政治情勢

【内政】

(1) ルセーフ大統領のメーデーでの演説

- (ア) 1日、ルセーフ大統領は、労働者党（PT）政権の支持基盤である主要労組等により開催されたサンパウロにおけるメーデーの集会で演説を行った。
- (イ) 演説の中で、ルセーフ大統領は、ボルサファミリア（低所得世帯に対する給付金制度）給付額の引上げ、所得税各税率の月額基準所得の引上げ（非課税条件の緩和につながる）等を実施する旨発表した上で、テメル副大統領が大統領となれば社会プログラムは後退すると述べた。

(2) ジャノー連邦検事総長による捜査許可請求等

- (ア) 2日、ジャノー検事総長は、連邦最高裁判所（STF）に対し、ペトロbras汚職事件関連の起訴状及び捜査許可請求を提出した。3日、同請求等の概要が公表されると、ブラジルのメディアは一斉に報じた。その中には、ルーラ前大統領に対する起訴状のほか、ルセーフ大統領に対する捜査の許可請求も含まれていた。
- (イ) ジャノー検事総長は、起訴状の中で、「ペトロbrasをめぐる汚職網は、ルーラ前大統領の参画なくしては、これ程幅広く、大量に、かつ乱暴な内容で何年も機能することはなかったであろう」と述べ、同前大統領が中核として関与していたとの見方を明らかにした。
- (ウ) ルセーフ大統領については、ペトロbras汚職事件で逮捕されたゼネコン幹部を早期に釈放させるよう、STFに圧力をかけていたとの容疑で捜査請求が出されており、また、ルーラ前大統領を文官長に就任させたことについても、捜査妨害であるとの指摘がなされている。

(3) ルセーフ大統領のリオ五輪聖火リレー開始式典での演説

- (ア) 3日、ブラジリアの大統領府にてリオ五輪聖火リレー開始式典が行われ、ルセーフ大統領が出席し、演説を行った。
- (イ) その中で、同大統領は、「ブラジルは、過去のオリンピック・パラリンピック大会の中で、最も成功した大会を実現するための準備ができている」、「治安対策の総合計画も整っている。ブラジルでは、各国選手・指導チーム・国家元首・観戦客・プレス等すべての来訪者の安全を守るための準備が整っていることを保証する」などと述べた。

(4) 上院での大統領弾劾手続きの進捗

- (ア) 4日、大統領弾劾に係る上院特別委員会において、アナスタジア報告者（上院議員、伯社会民主党（PSDB））より意見書の提出、読み上げが行われた。
- (イ) 6日、同特別委員会は、賛成 15、反対 5 で大統領弾劾を正当なものと結論付けた意見書を採択した。

(5) クーニャ下院議長の停職処分

- (ア) 5日、STF 大法廷は、同日未明にザヴァスキ STF 判事が発出した、クーニャ下院議長（伯民主運動党（PMDB）、ペトロラス汚職事件で起訴済み）の議員及び議長職の停職を求める仮処分について、満場一致で認めるとの判断を下した。
- (イ) クーニャ議長は、ザヴァスキ判事の仮処分の通告を受けた時点で停職となり、マラニョン下院第一副議長が議長代行に就任した。

(6) 下院議長代行による弾劾手続きの無効化決定

- (ア) 9日、マラニョン下院議長代行は、連邦総弁護庁（AGU）の要請を受理する形で、下院議員による表決を含む、4月15～17日に下院本会議で行われた弾劾に係る審議を無効とする旨決定した。
- (イ) 同日、カリエイロス上院議長は、マラニョン議長代行による今般の決定について、弾劾手続きは既に上院に移り、特別委員会における意見書の採択等も行われており、また、AGU が指摘する手続き上の不備も認められないため、同議長代行の決定は今更受け入れることは出来ないとした上で、上院での弾劾手続きを継続すると述べた。
- (ウ) 10日未明、マラニョン議長代行は、今般の無効化の決定を取り消すと発表した。

(7) 大統領の弾劾に係る上院本会議での表決

- (ア) 12日早朝、上院本会議は弾劾法廷の設置と、それに伴う諸手続きの開始を問う表決を実施したところ、賛成 55、反対 22 で可決された。
- (イ) 12日、上記（ア）の結果がルセーフ大統領及びテメル副大統領に通告され、同大統領は最大 180 日間の停職となり、同副大統領は大統領代行に就任した。但し、停職期間中も、ルセーフ大統領は大統領公邸に居住することが可能。

(8) テメル暫定政権の発足

- (ア) 12日、テメル大統領代行は所信表明演説を行い、政治と経済の信頼回復に努め、投資を回復させ、失業率の増加に歯止めをかけると述べた。
- (イ) 増税については言及せず、政府支出の削減等により財政調整を行い、PT政権下で進められた社会プログラムについては原則継続すると述べた。また、労働法規、年金制度改革等の構造改革に臨む姿勢を明らかにした。
- (ウ) テメル暫定政権では、大臣ポストの数がルセーフ政権時の32から25に削減された。主要大臣は、メイレス財務大臣（元中銀総裁）、セーハ外務大臣（元保健大臣、元サンパウロ州知事）、ジュカー企画予算大臣（上院議員、PMDB党首代行）、パディーリャ文官長（内閣官房長官に相当。元大統領府民間航空庁長官）など。

(9) 与党連合の形成

- (ア) 18日、下院に議席を持つ12の党首は、テメル暫定政権を支持する「中道派連合（Centrão）」の形成を決定した。
- (イ) 下院の総議席数513の内、これら12党の議席の小計は225となる（同日時点、以下同）。これに、テメル大統領代行が党首を務めるPMDBの議席を足せば、293議席に達するため、それだけでも下院の過半数を占める計算となる。
- (ウ) 更に、PSDB、伯社会党（PSB）、民主党（DEM）、緑の党（PV）などの今回入閣している政党及びPT政権時代に反PTの姿勢を明らかにしていた野党政党の議席を加えれば、単純計算で、下院で400超（全体の約80%）、上院（総議席数は81）では60超に達する。

(10) ジュカー企画予算大臣の休職

- (ア) 23日、ブラジル主要メディアは、ジュカー企画予算大臣がペトロブラス汚職事件に関与した可能性をうかがわせる、元同社子会社社長との通話記録が公開されたと一斉に報じた。
- (イ) ジュカー大臣は、記者会見で自らの身の潔白を主張したものの、テメル大統領代行に休職を申し出て、受理された。同大臣は、連邦検察庁から本件に対する見解が表明された後、正式な進退を決定すると述べた。
- (ウ) テメル暫定政権は、ジュカー大臣を含む実行力を伴う経済チームを揃えたとの評価を得ていたが、景気回復の実現に向け不安を露呈する形となった。

(11) 文化省の再設置

- (ア) 23日、テメル大統領代行は、教育省に統合した文化省の再設置を決定し、24日にカレロ大臣の任命式が行われた。
- (イ) 文化省の教育省への統合決定直後より、文化人等による抗議活動が国内各地で行われており、そうした要求に応える形となったものの、連立与党内では、省庁再編により歳出削減を目指すとの公約を破るものとなるとの批判も噴出した。

(12) 透明性監察監督大臣の辞任

- (ア) 30日、シルヴェイラ透明性監察監督大臣は、本年2月に録音され、今般公開された会

話記録の中で、検察によるペトロbras汚職事件捜査を批判したこと等が明らかとなったことを受け、辞職願を提出した。

(イ) 同大臣は、5月12日に発足したテメル暫定政権で、汚職捜査の関連で辞職を願い出た二人目の大臣となった。

【外交】

(1) セーハ外務大臣の就任

12日、ジョゼ・セーハ上院議員（伯社会民主党、サンパウロ州選出）が新外務大臣に任命され、18日、外務省にて同大臣の就任式典が開催された。セーハ大臣は就任の辞において、以下の伯外交の新たな10指針を挙げた。

- (ア) イデオロギーではなく、経済などブラジルの国益に基づく透明性のある外交
- (イ) 国際条約の遵守、民主主義、人権の尊重など
- (ウ) 環境保全の重視
- (エ) 国連などの国際場裡における紛争の平和的な解決、経済的な危機への対処に対する貢献
- (オ) 貿易についてWTOの多角的貿易体制にのみ依存することなく、二国間のベースでの交渉にも取り組む
- (カ) 開発商工省及びCAMEX（貿易審議会）と協力し、相互主義に基づくブラジルの対外貿易交渉の促進
- (キ) 対アルゼンチン関係の重視及びメルコスールの改革
- (ク) 欧州、米国、日本といった伝統的なパートナーとの関係の重視
- (ケ) アジアの新しいパートナーすなわち中国、インドとの関係の重視とともに、アフリカとの新たな関係の構築
- (コ) 民間部門との協力を得つつ、生産性と競争力の向上を通じた対外経済政策の実施と同時に、ブラジル・コストの問題への対処、インフラの改善の必要など

(2) ブラジル国内状況に関する中南米の一部諸国の表明に対する反論

- (ア) 13日、ブラジル外務省は、ベネズエラ、キューバ、ボリビア、エクアドル、ニカラグア政府、米州人民ボリバル同盟（ALBA）が、ブラジル国内政治情勢に関して「大統領弾劾はクーデター」等の表明をしていることに対して、「ブラジルの内政プロセスに関して意見を述べ、虚偽を広めるものである。このプロセスは、民主主義の諸機構及びブラジル憲法を完全に尊重する中で展開しているものである」とするステートメントを発表した。
- (イ) 一方、ブラジルの内政に関する南米諸国連合（UNASUL）事務局長の声明に対して、ブラジル外務省は、「サンペール同事務局長によるブラジルの政治状況に関する声明を拒否する。これらの声明は、ブラジルの民主的諸機構の機能を誤認しているものである。同事務局長の声明は、誤謬に加えて、ブラジルの国家機構とその権能に対するいわれのない評価や偏見がうかがわれ、ブラジルの憲法と法律に関して間違った解釈をしている」旨のステートメントを表明した。

(3) セーハ外務大臣のアルゼンチン訪問

- (ア) 23日、セーハ外務大臣はアルゼンチンを訪問した。マルコーラ外務大臣の他、マクリ大統領、ミケティ副大統領、プラット・ガイ財務・金融大臣とそれぞれ個別に会合を行った。外相会談では、二国間関係発展の重要性につき強調した後、二国間政策調整メカニズムの立ち上げに関する覚書に署名が行われた。同枠組みの目的は、両国の二国間、地域間、国際場裏におけるアジェンダの調整や、科学技術、イノベーション、インフラ、国防、航空産業、エネルギー、通商といった分野における二国間の戦略的なイニシアチブやプロジェクトに対するフォローを行うことにある。
- (イ) ミケティ副大統領との会合では、二国間関係促進に向けた議員間の二国間委員会の立ち上げが合意された。

(4) 外務省の新体制（マルコス・ガルヴァオン外務省新次官の就任）

- (ア) 25日、ブラジル外務省で新旧次官交代式が行われ、セーハ外務大臣同席の下、ダネーゼ前次官に代わり、ガルヴァオン新次官（前在京大使）が就任した。ダネーゼ前次官は次期アルゼンチン大使に就任する。
- (イ) 報道によると、ヴィエイラ前大臣は国連大使、パトリオッタ現国連大使（ルセーフ第一政権時の元外務大臣）は駐コロンビア大使に就任予定。フィゲイレド現駐米大使は、IAEA大使に異動すると見られている。

(5) セーハ外務大臣のカーボ・ヴェルデ訪問

- (ア) 28日、セーハ外務大臣はカーボ・ヴェルデを訪問した。大臣就任以来、初のアフリカ訪問。フォンセカ大統領、シルバ首相への表敬、タヴァレス外務大臣と会談を行った。
- (イ) 両国間には、カーボ・ヴェルデからブラジルへの留学のための奨学金、カーボ・ヴェルデ海軍への訓練支援等の協力プログラムがあるが、今回の訪問では、経済協力の拡大について協議がなされた模様。

3. トピックス

(1) 梅田大使のセルジッペ州公式訪問

- (ア) 17日～18日、梅田大使夫妻はセルジッペ州への公式訪問を行った。この公式訪問で、梅田大使夫妻はジャクソン・バヘット・セルジッペ州知事を表敬し、日本とセルジッペ州の経済関係強化やオリンピックにおける協力について意見交換を行った。
- (イ) また、訪問期間中、梅田大使夫妻は、リオ2016オリンピック・パラリンピックに向けて、州都アラカジュ市にてサッカー男子チームなど4団体が事前合宿を行う会場を視察する共に、現地日系社会代表、及び、進出日本企業関係者（矢崎ブラジル社）との間で懇談を行った。

(2) マリンガ日本公園新旧会長交代式（クリチバ総領事館）

4月28日、マリंगाの日本公園の新旧会長交代式が約500名の参加の下に盛大に行われ、池田在クリチバ総領事夫妻が出席した。池田総領事からは、昨年はパラナにおける日伯友好120周年記念行事が同公園からスタートし秋篠宮同妃両殿下をお迎えするなど同日本公園が日伯友好の象徴的存在となっていると述べつつ、前会長の努力を労い、新会長の成功を祈念する旨を述べた。新旧会長からは、日本政府を始めとする関係者の支援に対する感謝の意が表明された。



▲池田総領事夫妻と鈴木前会長夫妻



▲ノマ新会長と池田総領事夫妻

(3) 第43回日伯友好経済使節団の訪日（クリチバ総領事館）

5月14日から22日の期間、ルイス・ニシモリ連邦下院議員率いる第43回日伯友好経済使節団が訪日した。使節団一行は、皇太子殿下に謁見し、麻生副総理を表敬した他、東京、横浜、神戸の港湾施設を視察した。また、パラナ州と姉妹州関係にある兵庫県を訪問し交流を深めた。また、今回の訪日の機会に、使節団より日本の関連企業等に対し、マツグロツソ・ド・スール州のマラカジュからパラナ州パラナグア港までに至る貨物鉄道の整備計画について説明した。



▲横浜港にて

4. 大使館からのお知らせ

(1) 文化イベント

巡回展「武道の精神展」（サンパウロ）

日時：5月26日（木）～6月21日（木）

場所：シネマテカ・ブラジレイラ

内容：日本の武芸・武術の歴史の中で用いられてきた武具類（弓具，刀剣，甲冑等）について展示。

国際フェスタ（レシフェ）

日時：6月4日（土）～5日（日）

場所：パツソ・アルファンデガ・ショッピング・センター

内容：国際フェスタの中で，文化啓発品等の展示及びジャパン・ビデオ・トピックスの上映を行う。折紙のワークショップや和太鼓の演奏も行われる。

第9回ヴァレンサ日本祭り（リオ州ヴァレンサ）

日時：6月11日（土）

場所：ジョゼ・フォンセカ州立学校

内容：リオ州ヴァレンサにおいて，伝統的な盆踊り・和太鼓・武道の実演・日本のキャラクターに関する講演など，様々な日本文化紹介を実施する。

日本についての講演会（ペルナンブコ州リモエイロ）

日時：6月14日（火）

場所：リモエイロ文化センター

内容：ペルナンブコ州の地方都市リモエイロ市において，西洋との出会いを絡め，日本の戦国時代から明治維新までの歴史の概要を，分かりやすく紹介する。

日本映画際（サンタカタリーナ州バウネアリオ・カンボリウ）

日時：6月16日（木）

場所：ブルーノ・ニッツ市営劇場

内容：サンタカタリーナ州バウネアリオ・カンボリウ市において，「ほしのこえ」，「言の葉の庭」，「ALWAYS 三丁目の夕日 '64」3本の日本映画を上映する。

第5回ブラジリア日本祭り（ブラジリア）

日時：6月17日（金）～6月19日（日）

場所：パルケ・ダ・シダージ内エクスポブラジリア・パビリオンB

内容：各種日本文化の展示やショー，日本食の販売など。在ブラジル日本大使館のブースではロボットパロ，ひな人形等の展示及び元日本国費留学生による留学案内も実施する。18日には女子柔道ロンドンオリンピック銅メダリスト・世界選手権金メダリストの上野順恵選手がデモンストレーションを行う。

第26回移民祭り（クリチバ）

日時：6月18日（土）～19日（日）

場所：バリグイ公園ルノー大展示場

内容：パラナ州クリチバ市において，着物ショーや太鼓，生け花など様々な日本文化紹介を実施する。

（2）ブラジル渡航情報

(ア) 外務省 海外安全ホームページ

各国の危険情報や安全対策など、海外赴任、出張及び旅行をする際の留意点が掲載されている。

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

(イ) ブラジル渡航情報

①危険情報

5月18日付で内容を改訂したので御確認いただきたい。以下の地域が「レベル1：十分注意してください。」となっているので、詳細をホームページで確認いただきたい。

- ・ブラジリア連邦区（継続）
- ・サンパウロ州大サンパウロ圏及びカンピーナス市（継続）
- ・リオデジャネイロ州大リオ圏（継続）
- ・アマゾナス州大マナウス圏（継続）
- ・パラ州大ベレン圏（継続）
- ・ペルナンブコ州大レシフェ圏（継続）
- ・バイア州大サルバドール圏（継続）
- ・エスピリトサント州大ビトリア圏（継続）
- ・パラナ州大クリチバ圏（継続）
- ・リオ・グランデ・ド・スル州ポルトアレグレ市（継続）

<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsposhazardinfo.asp?id=259>

②安全対策基礎データ

主要各州、都市毎の犯罪発生状況、防犯対策及び滞在時の留意事項等に加え、査証、出入国審査や大使館、総領事館の緊急連絡先が掲載されている。

<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure.asp?id=259>

③テロ・誘拐情勢

<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pterror.asp?id=259>